



5月3日(木)に労協連本部8階食堂でフードパントリーという困窮者世帯への食糧等の提供というイベントを開催。本部で子ども食堂を長年続けるなかで、豊島区子ども食堂ネットワークに参加し、さまざまな子ども食堂に取り組む個人、NPO、企業、社協、行政と繋がり、その中から連携し生まれ実施した企画。予想をはるかに上回る約50名の方が参加し笑顔があふれ、また見学にきた企業や教会でもフードパントリーの取り組みから始めようと、8月に実施する準備を進めている。子どもの貧困や子育て世帯を支えようと、地域で分野を越えた取り組みを本部自らも実践し、学んでいる。

5月は労協連に加盟する各団体の総会に参加した。出席することで組合員の顔が見え、現場の雰囲気伝わり、実践の詳細がよく分かり勉強になる。大分自動車交通労働者協同組合では、44年前に労働者による自主経営から始まり、高齢化や運転手不足のなかでも、高齢者の見守り活動や学童の登下校支援など新たな役割も生まれている。

三重中高年雇用福祉事業団では主力の高齢者デイサービスが元気で、昨年度1年間で22件の新規契約者を確保し、毎日約20名がパワーリハビリと呼ばれる

介護予防の機械トレーニングをおこなっている。介護スタッフは全員各種委員会活動に参画し、主体的に事業運営に関わることで、利用者や家族やケアマネが口コミで誘いたくなるようなケアを生み出している。

「協同労働の協同組合」の法制化に関する与党ワーキングチームも今年度に入り、何度も会議を開催するなかで、労働条件を既存の手続きに上乘せして、総会または事業場において組合員が決められることを検討している。まさに各総会は自分たち組合員が1年間取り組んできたことを共有、評価、分配も決めながら、翌年度の計画を自らで検討する場となっている。

6月22-23日はいよいよ労協連総会である。全国の加盟組織の実践を共有すると同時に、いまどのような社会を私たちは生きているのか、そして協同組合に求められることはなにかを共有したい。そして「協同労働の協同組合」の法案づくりが進むなか、改めて自分たちは何者で何を指すのかを明確にし、具体的に地域住民と共に地域課題に立ち向かう協同労働の質的転換を促す、総会となるよう準備を行なっている。